

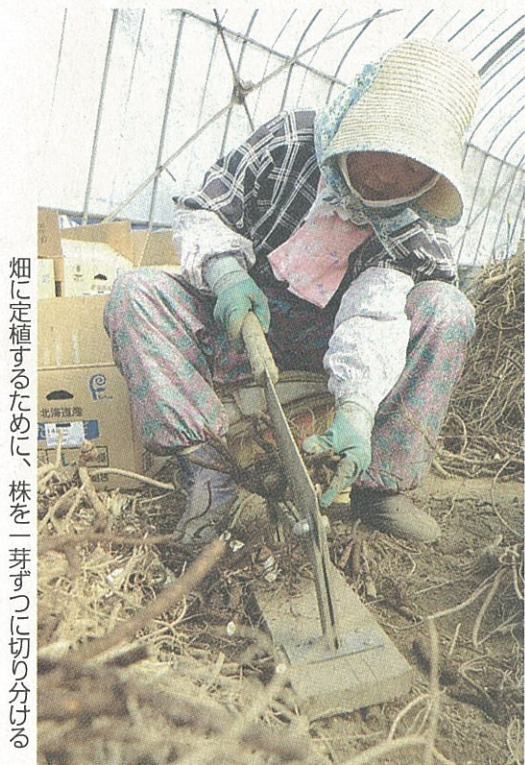


ウドの親株。手に持っているのは切り分けた芽（栃木県大田原市で）



ビニールハウスの地下で育つウド。明かりは収穫の時しかつかない

# 地下で育む



畑に定植するために、株を二芽ずつに切り分ける

**春** の味覚のウド。でもなんでもあんなに真っ白なんだろう。栽培方法を教えてもらおうと訪ねたのは、ウドを作って24年になる栃木県大田原市の古谷慶一さん(52)だ。古谷さんが案内してくれたのは、ビニールハウスの地下にある室。ここに収穫間近のウドが育っていた。ウドは太陽光を当てずに栽培していたんだ。

**収** 穫で注意するのは、白い皮の部分に生えた産毛をつぶさないこと。そして石突きと呼ぶ茶色い皮の部分が付けたまま刈り取る。石突きがないと、すぐに鮮度が落ちてしまうそう。さらに、箱詰めも窓のない部屋で行う。JA管内では、ハウスの地上部にもみ殻を入れた大きな木枠を置き、そこで遮光シートをかぶせて栽培する人もいる。収穫直前に太陽に当て、先端部分をわずかに緑色にさせる。古谷さんのものを軟化ウドと呼ぶのに対し、山ウドと呼んでいる。



鮮度を保つウドの石突き。堅そうに見えるが、皮をむいて薄く切り、みそ漬けにするとおいしい



むしろや遮光シートで覆った室の入り口